



茨城町の里山と称する所は意外に複雑な環境から成り立っています。そこには屋敷林と住宅、工業団地と緑地、道路とのり面、田畑などの耕作地、クヌギやコナラの雑木林、自然度が少し高い台地斜面の林、湧水と湿地、そして涸沼に代表される湖沼、涸沼川などの河川があります。それぞれの場所に応じて植物が生育していることはよく知られています。しかし、注意して見ますと、そこに昔は見かけなかった植物があることに気づくことがあると思います。今月は帰化植物とされているオランダガラシを紹介します。

▼オランダガラシとは

名前の通り、ヨーロッパ原産とされ、現在は北アメリカ、南アメリカ、日本を含むアジア、オセアニアにと広く分布しています。

日本には明治時代の初めに西洋野菜

里山に育む生きものたち

12 オランダガラシ

(アブラナ目 アブラナ科)

学名 *Nasturtium officinale* R.Br.

写真・文 / 安 昌美

として入り、現在もクレソンの名で利用されています。しかし、繁殖力は旺盛で、茎のちぎれた部分などからも根を出し、広がりますので、現在は北海道から九州まで野生化したものが見られます。町内では中石崎や下石崎の水路などで確認をしていますが、さらに広がっていると思います。

水辺や水中に生える多年草で、茎は横に広がり、下部の節から根を出します。また、よく枝を出して広がり、水面を被うこともあります。先端部の柔らかい部分を食用とし、ステーキなど肉料理の付け合わせに用いられます。辛みのある成分は肉の脂肪の消化を高めると言われますが、本来辛みなどの成分は、植物が虫などに食べられないよう、自分自身を守るために生産している物質です。人に利用されるとは思ってもいなかっただけでしょう。

花は春から初夏に咲き、種子でも繁殖しますが、ちぎれた茎などでも繁殖します。時に茎などがきれいな湧水の場所に置いてあることがあります。人による拡散もありますが、繁茂し過ぎて、古くからその場所に生育していた在来種などを駆逐したりすることが心配され、要注意外来生物に指定されています。生育地が広がらないようにしたいものです。

▼アブラナ科の野菜

クレソンとして利用し、広がり過ぎると要注意外来生物指定とは、人の身勝手と言われそうです。それにしてもアブラナ科の植物には私たちに野菜として貢献してくれるものが多いのです。アブラナ科の植物は北半球に多く分布し、特に地中海から西アジアに多くの種類が知られています。

野菜にも秋に芽生え、冬は葉だけで過ごし、春に開花するものが多くあります。このような暮し方は、地中海地方の、夏の乾燥と、冬の温暖多雨という気候条件に適応したものとされています。最近では「薑(とう)が立つ」という言葉はあまり使われていないと思いますが、植物にとつては、花を着け、種子を生産することは非常に大事なことです。

ただ、野菜として利用するのはキャベツやハクサイなどでは葉で、ダイコンやカブなどは根と、花を利用しない種類では花を着け始めることは「薑(とう)が立つ」として、歓迎されません。でも、たまにはお世話になっている野菜に花を咲かせて、観賞してみませんか。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成25年3月1日現在)

◆総人口 34,321人 (-53) 男 17,122人 (-27) 女 17,199人 (-26) ◆世帯 12,368戸 (-10)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インクを使用しています